

2015年(平成27年) 1月6日

No.422

ご家庭にも
お持ち帰り
下さい!

日野自動車
健康保険組合

http://www.hinokenpo.or.jp

新年のご挨拶

あけましておめでとうございます。

皆様には健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年中は、組合員・家族の皆様には健康保険組合の運営に多大なるご支援ご協力をいただきまして、深く感謝申し上げます。

現在日野自動車は、国内では、アベノミクスによる景気好転を背景に、公共事業増などによる拡販、海外では、持続的な世界中のお客様からのご愛顧の輪をひろげさせて頂いております。

一方、我が国の健康保険組合の財政は、社会の高齢化に伴う医療費の増加を健康保険組合に負担させる国の政策により厳しい環境が続いており、日野自動車健康保険組合も例外ではありません。特に、健康保険組合財政の厳しさを克服する為には、保険料率の見直しは避けられない状況にあります。こうした厳しい環境の中ではありますが、その保険者機能を維持するために、各種努力を進めているところであります。組合役職員一同、組合員及び家族の皆様が健康で安心して毎日をお過ごしいただけますように、特定健診・特定保健指導活動により疾病予防、早期発見・早期治療による重篤化予防、健康づくり支援の充実・強化などの諸活動を展開しております。

又、厚生労働省の掲げる「データヘルス計画」の作成と実行について、事業主と健康保険組合の協働で進めて行く所存でございます。

つきましては、皆様の変らぬご理解とご協力をお願い申し上げます。

最後に、本年も皆様方にとりまして、良い年でありますようにお祈り申し上げます。



中根理事長

職員一同	互選議員			選定議員			役員
	議員	監事	理事	議員	監事	理事	
	広 駿 遠 鈴 鈴 森	田	相 若 石 水	高 小 船 船 鈴 星	村 山 北		事 常 理 務 務 事 理 理 長 事 事 長
	瀬 場 藤 木 木	口	川 林 田 谷	橋 倉 山 本 木 野	松 本 島		水 坂 中
	純 英 一 仁	敏	輝 昌 大 和	信 武 美 三 晃 明	秀 瑞 秀		谷 木 根
	一 肇 覚 典 弘 志	明	彦 也 介 博	夫 史 松 雄 郎 雄	俊 穂 樹		和 敏 健
	(株)日野自動車労働組合	日野自動車労働組合	日野自動車労働組合	日野自動車労働組合	日野自動車労働組合	(株)日野自動車労働組合	博 久 人

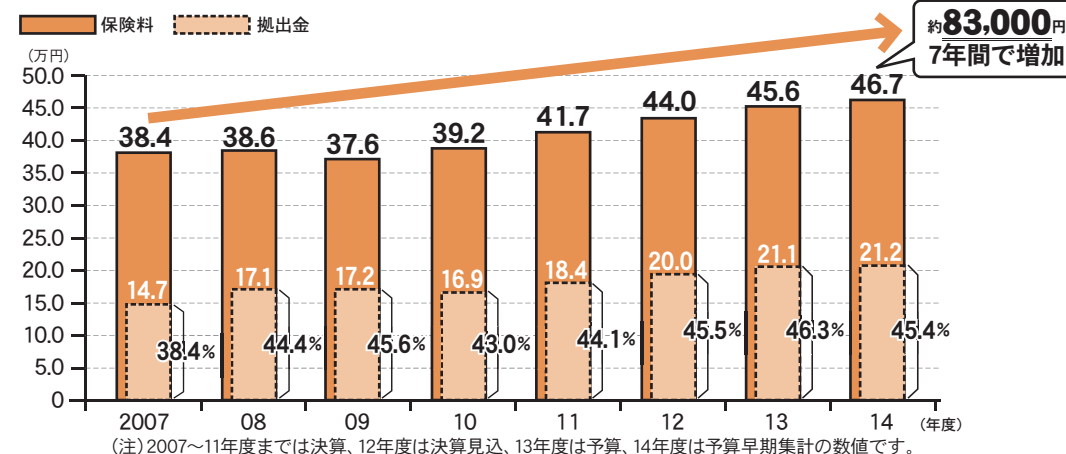
保険料の約5割は拠出金 高齢者医療への負担はもう限界です

健保組合は2008年度以降、7年連続の赤字財政となっています。これは、高齢者医療制度が創設され、65歳以上の高齢者の医療費を負担する現役世代の拠出金の仕組みが改正されたためです。

健保組合の被保険者1人当たりで負担する高齢者医療への拠出金は、制度創設前の2007年度の14.7万円(年間)から2014年度は21.2万円に増え、1人当たりの年間保険料も、この7年間で8.3万円、1年間に約1.2万円増加しています。拠出金を支払うために多くの健保組合が保険料を引き上げていますが、保険料に占める拠出金の割合は確実に上昇し、2014年度は45.4%と約5割に達しています。

2015年度にはすべての団塊の世代が65歳以上の前期高齢者となり、高齢者の医療費は、さらに増加することが見込まれますが、現役世代の保険料による拠出金負担はもう限界です。

1人当たりの年間保険料に占める拠出金の割合(年度)推移



日本の国民医療費は毎年1兆円を超える規模で増加し、現在の仕組みのままでは増え続ける医療費を支えることができなくなります。

将来にわたって国民皆保険制度を維持していくためには、国民医療費全体の約6割を占める高齢者医療費を国民全体でどのように負担していくかが最大の課題です。

健保組合と健保連は、健保組合の財政悪化に歯止めをかけ、国民皆保険を守っていくためにも、高齢者医療制度に公費(税金)を投入・拡充することを国に強く求めています。

※本資料は、健保組合の事業主・加入者の方がたに健保組合の現状と、健保組合・健保連の主張を広くご理解いただくことを目的に作成し、全健保組合の統一広報活動として広報誌およびホームページに掲載しています。

誰もが安心して医療を受けられる国民皆保険制度は、私たちの貴重な財産。この財産を守るため、医療保険制度を超高齢社会に耐え得る仕組みに改革すべきです。全国の健保組合と健保連は、一丸となって、『あしたの健保プロジェクト』を展開し、主張の実現をめざしています。



ご家族のみなさんとともにお読みください

献血にご協力ありがとうございました

このたびの献血活動では、多くの皆様方に献血をしていただき、誠にありがとうございました。この結果を下記のとおりご報告致します。

なお、少子高齢化に伴い輸血用血液は全国的に不足しており、特に冬場は厳しい状況になっておりますので、来年度も更なる皆様方のご協力をお願い致します。

<献血者数の推移>

2010年	2011年	2012年	2013年	2014年
266	258	246	284	249

(人)